

7	特別支援教育
テーマ	個に応じ、能力を伸ばす特別支援教育
基調	<p>近年、特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒や、通級による指導を受けている児童生徒は増加傾向にある。また、通常の学級においても、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が少なくない状況である。</p> <p>特別支援教育においては、合理的配慮をもとに児童生徒の能力や可能性を最大限に伸ばし、社会的に自立するための適切な指導や必要な支援を行うことが何よりも重要である。そのためには、児童生徒一人一人の実態を把握し、個々の教育的ニーズに応じた個別の指導計画や教育支援計画を作成し有効に活用する等、学習環境整備の充実を図っていくことが必要である。そして、学習や生活上の困難を改善・克服するために必要な力を培うことのできる教材や効果的な指導法、ユニバーサルデザインの効果的な導入、支援ツールの共有化、ICT教材の活用等について研究を深めていくことが大切である。</p> <p>特別支援教育コーディネーターを中心とした学校全体での支援体制の整備・強化を図るとともに、特別支援学校や関係諸機関との連携を緊密にし、支援体制をより充実させていくことも重要である。また、通級による指導は近年その必要性が増しており、早期に対応できる体制整備が望まれる。更に、特別支援学校と地域の小・中・高等学校、特別支援学級に在籍する児童生徒と通常の学級との交流及び共同学習等、連続性のある「多様な学びの場」を整備し、相互理解を深め認め合うための取組が今後ますます重要になる。</p> <p>前回大会（山口大会）では、特別支援教育においてPDCAサイクルの大切さ、特に評価を生かした改善を行うことの重要性が確認できた。一方、交流学級での共同学習の評価方法や日課編成の仕方、高校での通級指導体制の充実等が課題として挙げられた。</p> <p>本分科会では、山口大会に引き続き、子供たちが高い志をもち、主体的・協働的に学び、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすことのできる個に応じた適切な指導や必要な支援の在り方について、研究を深めていく。また、特別支援教育の全校的・機能的な支援体制づくりについて協議し、提言していく。</p>
研究の視点	<ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じた適切な指導や必要な支援の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ① 個々の実態に応じた教育課程の編成 ② 個別の指導計画及び教育支援計画の効果的な活用とその評価 ③ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育環境や指導の工夫 ④ 教材や支援ツールの共有化 ⑤ ICT教材を活用した効果的な指導 2 特別支援教育の全校的・機能的な支援体制の在り方 <ol style="list-style-type: none"> ① 特別支援教育コーディネーターを中心とした共通理解と校内支援体制の強化 ② 通級による指導の効果的な支援体制 ③ 通常の学級や異校種間との交流及び共同学習 ④ 管理職をはじめ全ての教職員の専門性を深める研修 ⑤ 異校種間や専門家、医療機関等との連携 ⑥ 保護者や地域への啓発と連携